小学校 × 外国語活動・外国語

外国語活動・外国語どこが変わる？

まず現行と次期をマーカーで比べ、そのあと現行の解説（公式PDF）を読めます。

変わる所 15項目　解説PDF 1件



10秒でいうと

外国語活動と外国語科の形は維持。読む・書くの段階を細かく示し、語順の違いに気付かせる

3・4年の外国語活動と5・6年の外国語科という今の形は続く見込みです。そのうえで、つまずきの多い「読むこと」「書くこと」を、段階を追って丁寧に育てる方向です。学習は、考えを伝え合う「コミュニケーション活動」と、それを支える活動の2つで整理されます。中学校の文法につなげるため、日本語と英語の語順の違いに気付かせることも重視されます。

どこが変わる？現行⇔次期（小学校）

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強調される言葉　~~赤の取り消し線~~＝現行から消える・変わる言葉

学年ごとの目標

現行

各学校が「~~学年ごとの目標を適切に定め~~」ることになっている（小：2学年間、中：3学年間を通じて目標の実現を図る）。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

学習指導要領が段階的な内容を示すので、学年ごとの目標の**一律の作成義務はなくし**、必要な場合に**任意で作る**方向（審議まとめの案）。

P280　資料(外⑲)P19　現行現行抜粋P6・P15・P25

見方・考え方

現行

外国語で表現し伝え合うため、
外国語やその背景にある文化を、
~~社会や世界、他者との関わり~~に
着目して捉え、目的や場面、
状況等に応じて、~~情報を
整理しながら考えなどを形成し、
再構築すること~~（101字）。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

外国語及び外国語による
コミュニケーションを、**文化の
違いや社会及び相手との関わり**に
着目して捉え、**多様な他者の考えを
受け止める**とともに、**表現等を
工夫して**自らの考えを伝え、
相互理解を図ること（91字）。

P279　資料(外⑦)P7

知識及び技能の目標の書き方

現行

外国語の~~音声や語彙、表現、文法、
言語の働きなど~~を理解し、聞く・
読む・話す・書くことによる実際の
コミュニケーションで活用できる
技能（中）。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「**外国語の特徴やきまり**」を
理解し、実際の
コミュニケーションで活用できる
技能。各言語材料や領域の列挙は
目標から省いて短くする。

資料(外②)P2

目標で扱う話題

現行

中・高の目標に「~~日常的な話題や社会的な話題~~について」と書く。
小学校外国語活動は「~~身近で簡単な事柄~~」。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

目標では中学校「**様々な話題**」、高校「**幅広い話題**」とし、具体的な話題は「内容」で示す。
小学校外国語活動は「**ごく身近な事柄**」、外国語は「身近な事柄」。

資料(外③)P3

活動の名前

現行

~~言語活動~~

→

次期（審議まとめの案・告示前）

コミュニケーション活動（主に思・判・表を育てる）と
コミュニケーション活動を支える活動（主に知・技を育てる）

P277 P279 P284 資料(外㉛)P31

言語の使用場面

現行

「内容」の中に「~~言語の使用場面の例~~」として示す。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「**指導計画の作成と内容の取扱い**」に移し、「**コミュニケーションの場面**」として例示する。

P280 資料(外⑯)P16 資料(外㊲)P37

言語の働き

現行

「内容」の中に「~~言語の働きの例~~」として示す。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「**コミュニケーションの意図（仮称）**」として例示する（例：相手との関係を円滑にする・気持ちを伝える／事実・情報を共有する・相手の行動を促す／考えや意図を共有する）。知・技の指導での扱い方も示す。

P280 資料(外㊲)P37

「内容」に入るもの

現行

知・技（言語材料）、思・判・表、~~言語活動及び言語の働きに関する事項~~（言語活動・使用場面・働きの例）。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「内容」は**資質・能力に限る**。思・判・表は「**総合的な発揮**」と領域ごとの「話題・条件・できること」、知・技は「**統合的な理解**」と英語の特徴やきまりに関する事項。活動の例は「指導計画の作成と内容の取扱い」へ。

資料(外⑯)P16 資料(外㊹)P44

思考力、判断力、表現力等の示し方

現行

~~5つの領域別の目標~~と、それを大まかにまとめた「内容」の思・判・表。重なりがあり、深まりが見えにくい。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「総合的な発揮」をCEFRの分類（Reception・Production・Interaction）を参考に**【理解する】【表現する】【伝え合う】**に分け、領域ごとの内容は学年段階の目安つきで示す。

P280 資料(外⑧)P8

語彙

現行

~~語数の目安だけ~~（小600～700語、中1,600～1,800語程度の新語、高1,800～2,500語程度、合計4,000～5,000語）。リストはない。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

国が**基盤語彙リスト**を作り、教科書でリストの語を使うよう推奨。指導すべき語彙数も**精選**を含めて見直す（合計は「●語程度」とされ未定）。

P283 資料(外㉙)P29 現行現行抜粋P11・P21・P3

AIの扱い

現行

学習指導要領にAI活用の位置付けがない。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

デジタル学習基盤の活用を明記し、その一つとして発達の段階に応じた**AIの適切な活用**を書く。**人間同士のコミュニケーション**を充実させるという原則を明確に。

P277 P278 P282

評価規準の作り方

現行

各学校が①内容のまとまりごとの評価規準、②単元の目標、③単元の評価規準を作る。外国語は領域別目標が3つの柱で整理されておらず、作業が煩雑。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

内容のまとまりごとの評価規準例は**国が示し**、学校の**作成は不要**。外国語の「内容のまとまり」は**5つの領域**とする方向。単元の目標が**そのまま評価規準**になるようにし、「内容」を基に作る。

P285 資料(外㊳)P38 資料(外㊴)P39

授業の言語と母語使用

現行

中・高とも「授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いる」。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「授業を生徒の理解に応じた英語で行うこと」を**堅持**。表現集・動画を国が提供し、教師の**補助的な日本語使用**やAI活用も含めた**母語使用**の考え方を解説で示す。

P284 現行現行抜粋P26・P46

小学校外国語の思・判・表の目標

現行

音声で十分に慣れ親しんだ語彙や基本的な表現を「~~推測しながら~~読んだり、~~語順を意識しながら~~書いたり」して伝え合う基礎的な力。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「推測しながら」「語順を意識しながら」は「**内容の取扱い**」で示し、目標は「読んだり書いたりして、伝え合うことができる基礎的な力」と短くする。

資料(外③)P3

教材に関する留意事項（文化）

現行

多様な考え方への理解、我が国の文化や英語の背景にある文化、国際理解の観点。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

これらに「**多様性の包摂**」「**多文化共生**に対する理解」を加え、話題・活動にも明示する。

P282　資料(外㉕)P25　資料(外㉖)P26　資料(外㉗)P27

現行の解説を読む（公式PDF）

いまの小学校の外国語活動・外国語の解説です（文部科学省のPDFが新しいタブで開きます）。

PDF **外国語活動・外国語編**
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編

学習指導要領の本文

PDF **小学校学習指導要領（平成29年告示）**
全教科の目標・内容（この教科は第2章）

小学校の外国語活動・外国語の指導案（試案）



小 外国語活動 3年

アルファベットたんていになろう

本時のねらい 自分の名前の頭文字を集めるために、文字の名称を聞いてどの文字かを判断し、'Do you have ~?' を使って友達と尋ねたり…

指導案を見る →



小 外国語 6年

ようこそ、わたしたちの町へ

本時のねらい 海外の交流校の児童に町のよさが伝わるように、おすすめの場所とそこでできることを選び、語順や語と語の区切りに気を付けて、例を参考に…

指導案を見る →

もっとくわしく

英語はこう変わる　英語の新旧比較（全校種）　小学校の先生へ　資料室（小学校のほかの教科）

出典：中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）。P○ は本体PDFのページ、資料P○ は資料編のページ（クリックで該当ページが開きます）。